

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	りつめいかんけいしょうちゅうがっこう・こうとうがっこう				②所在都道府県	北海道
27～31	①学校名	立命館慶祥中学校・高等学校				県	
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	中学校：562名 高等学校：866名	
普通科 (中学校)	304 (190)	259 (185)	74 (187)		637 (562)	高3は立命館コース(LA・IR・JB・SS)と難関大コースに分かれる。両コースでは303名。	
	高3は、立命館コースの文系3クラス(LA・IR・JBコース)の特設講座選択者の人数。						
⑥研究開発構想名	「共鳴」と「創造」マインドを育む ―世界に通用する18歳―						
⑦研究開発の概要	将来の多文化共生の社会において、他者に「共鳴」し、新たな社会をともに「創造」できる人材育成を目的とする。そのため、課題研究のテーマを「多文化共生を共に創る」とし、他者との学び・活動・研究を進める。そして、人材育成のための教育システムの構築と具体的研究手法の確立を目指す。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p><b>(1) 目的・目標</b>            グローバリゼーションが進展し、多文化共生が求められる中で、他者との違いを理解し、認め合い、尊敬し合うことによって「共鳴」し、文化や言葉、生活習慣の異なる人たちとともに、新たなものを「創造」することができるグローバル・リーダーを育成する。</p> <p><b>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</b>            本校は、北海道の学校として特色ある教育を築き上げてきた。創立当初から世界を教材とする国際教育に力を入れ、「世界に通用する18歳」を育てることを重視して創立20年目を迎える。生徒の国際理解に係る関心は高く、外国語の運用能力も高いが、異文化にある他者を理解し、ともに考える機会を保障することが課題である。            一方、これまで海外との相互交流で実施してきた交流事業、3年次立命館コースで実施してきた課題研究は、一定の成果を上げている。これらについて、より組織的・計画的な指導体制の整備によって、さらなる人材育成の効果が期待される。            以上の課題を踏まえ、1～2年次において、<u>地域の課題を考える</u>ことから敷衍して<u>世界の課題について検討する</u>ことにより、相手の意見を丁寧に聴き、立場の違いを理解して対話し、他者ととともに考える力を育てる。そして、3年次には<u>世界のより大きな課題へ迫る取組</u>を実施し、異文化にある他者と新たなものを創る取組を行う。中学同様、高校においても「地域から世界へ」という流れを重んじたい。            そこで、次の仮説を設定する。</p> <p>○仮説1            高校1年次に「地域研究」(1単位分)として地域の課題を考える学習を実施し、地域課題について考えることで、問題解決のための発想力をつけることができる。</p> <p>○仮説2            高校2年次に「海外文化研究」(1単位分)として世界の課題を考える学習を実施する。異文化にある他者と共感できる力をつけることができる。</p> <p>○仮説3            高校3年次に、立命館コースの文系生徒全員に対し、世界の課題の深掘にチャレンジするステージとする。ここでは、「観光開発」「国際社会」「アジア学」の特設講座(各3単位)において、異文化に生きる人々と共に学び、平和的解決へ向けて対話する力をつけることができる。</p> <p><b>(3) 成果の普及</b></p>					

	<p>課題研究の論文をまとめた成果報告書を作成し、SGH 課題研究発表会を開催する。また、学校祭、小学生向け体験授業、中学生向け体験授業等で、学外の生徒・保護者に対し本校の研究成果の発表や研修報告を行うとともに、Web 上で成果を公表する。さらに、海外の大学・高校・国際機関との連携による取組をマスコミに積極的に広報することにより、成果の普及に努める。</p>
<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p><b>(1) 課題研究内容</b>        テーマ：「多文化共生を共に創る」        高校 1 年では「地域研究」を、高校 2 年では「海外文化研究」を、そして高校 3 年の立命館コース文系 3 クラス (LA・IR・JB) の特設講座「観光開発」「国際社会」「アジア学」において課題研究を実施する。また、学校・学年全体へ向けた講演会や、学校内外への普及活動として SGH 課題研究発表会を開催する。</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域研究：地域の課題を考える学習を実施し、地域の課題について検討を行い、各教科学習において本校のグローバル・リーダーに求められる 6 つの力を養う学習を実施する。</li> <li>・海外文化研究：世界の課題を考える学習を実施する。ここでのフィールドは海外研修 (高 2 学年生徒を 7 つのコースに分け、それぞれの地域が抱える歴史的・文化的課題を考えるもの) である。統一設定したテーマに基づき、全コース共通のテーマを設定し、現地の高校生または大学生とのディスカッションや活動を企画し、実施する。この活動・経験を通し、生徒自身の自主性を育成し、現地の人々と協力して問題解決に取り組む態度を養う。</li> <li>・観光開発：北海道とサハリン (観光学を基礎に、両地域間の観光開発を行う)</li> <li>・国際社会：アイヌ文化 (自然との共存を基礎とするアイヌ文化の理解)</li> <li>・アジア学：多文化共生 (多様な民族が共生する東南アジアをモデルに多角的学習を行う)</li> </ul> <p>※上記の高 3 特設講座は週 3 単位で行う。フィールドワークを国内及び海外 (サハリン、タイ) にて実施する。それに加えて、各講座は立命館アジア太平洋大学や JTB 北海道、Bangkok YMCA など外部の大学・機関・組織と連携し、学校内に限定されない学びを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会・SGH 課題研究発表会：講演会を秋に、発表会を冬に実施する。</li> </ul> <p>〈検証評価〉初年度の検証は、高 1・2 年にアンケートやポートフォリオにて評価をする。高校 3 年特設講座については年 3 回実施するペーパーテストにおいて、知識を問うだけではなく、問題解決のための発想力や具体的な企画力を試す問題を設定する。また、プレゼンの作成・発表は教員と授業参観する第三者によって、評価を行う。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>        教育課程の特例を適用する内容はない。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容・実施方法          中学生に対しても高校での活動を意識し、各学年で取組を行う。さらに英語能力の向上を目的に、TOEFL-ITP を受験し、ハイスコア (500 点) を獲得できるよう講習を行う。          〈検証評価〉アンケートの実施、特定スコアを超える人数など。</li> </ul> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>        教育課程の特例を適用する内容はない。</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実施方法</b>        海外留学生 (短期・長期) の受け入れの促進と、生徒の短期・長期海外留学への支援を積極的に行う。また、平成 26 年度より始めたハーバード大学・MIT 研修を継続する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	

ふりがな	りつめいかんけいしょうちゅうがっこう・こうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	立命館慶祥中学校・高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	300人
	SGH対象生徒以外:		140人	150人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: SGH事業に関する活動を含む本校の諸活動も含め、自らの意思・判断によって取り組んだ人数。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	400人
	SGH対象生徒以外:		220人	210人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: 短期留学、長期留学、海外研修、海外でのフィールドワークに参加した生徒数								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		10%	18%	%	%	%	45%
目標設定の考え方: 校内アンケートを実施。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		8人	11人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 外部大学・機関の論文賞への入賞者数								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:		9%	10%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: 英語検定試験2級以上、TOEFL-ITP480点以上を対象数値とし、卒業時の生徒の割合で計る。								
(その他本構想における取組の達成目標)外国人年間来校者数								
f	SGH対象生徒:							200人
	SGH対象生徒以外:		45人	250人				60人
目標設定の考え方: 留学生も含め、外国人がいつでも校内にいる環境をつくるため、受入機関と連携を図る。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(31年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		55%	60%	%	%	%	65%
目標設定の考え方: 立命館大学・APUを始めとするSGU認定校への進学実績。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		3人	1人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: 海外大学への進学実績。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	20%
目標設定の考え方: 各生徒の課題研究内容と進学先の学部・学科を比較、校内アンケートを実施。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	150人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 追跡調査の正確性から、附属大学である立命館大学及びAPUへ進学した卒業生を対象とする。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	20人	23人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 特別講座「観光開発」「国際社会」「アジア学」で新たに企画するフィールドワークへの参加者人数。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	17人	30人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方: 特別講座「観光開発」「国際社会」「アジア学」の国内研修への参加者人数。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	5校	7校	校	校	校	校	校	30校
目標設定の考え方: 高2海外研修、高3フィールドワークで連携する海外の高校・大学・他組織の数。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	32人	35人	人	人	人	人	人	110人
目標設定の考え方: SGH事業に関する本校の活動に参画した回数。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	4人	10人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: SGH事業に関する本校の活動に参画した回数。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	12人	20人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 様々な大会情報を調査し、積極的に生徒の派遣を促進する。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	20人	164人	人	人	人	人	人	400人
目標設定の考え方: 在籍する生徒数。								
先進校としての研究発表回数								
h	4回	7回	回	回	回	回	回	15回
目標設定の考え方: 教員向け研究発表会の実施回数、及び外部研究会での本校教員の発表回数。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 英語記述のサイトを整備する。								
校内・外部に対して生徒がSGHの活動を発表・報告する回数								
j	0回	0回						20回
目標設定の考え方: 校内向け及び校外向けの中学1年から高校3年までの取組についての発表・報告回数。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について(「SGH対象外生徒数」のうちカッコ内は高校のみの生徒数)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,429	1,400	1,428	0	0	0	0
SGH対象生徒数			637				
SGH対象外生徒数			791(229)				